新米かあちゃん、奮闘中

生命環境科学研究科 助教 小林 ゆき子

この後期に育児休業から復帰し、1月末で子どもは1歳になります。この1年間はこれまで経験したことのない忙しさでしたが、大変充実した気持ちで過ごすことができました。復帰後は、周囲のみなさん、とくに研究室の全面的な協力のもと、メリハリをつけて精一杯お仕事させていただき育児を両立させることがなんとかできています。これは研究室みんなで子育てしているような感覚で、大変ありがたく本当に感謝しています。加えて、学生さんたちが私の姿を見て、将来仕事とライフイベントとに向き合ったときの何かヒントになればと願っています。

私の専門は栄養学で、現在は栄養失調に起因した疾患に対する栄養療法の基礎研究や、疾病が進行して食事制限が求められる患者さんが実施しやすくて成果が出る実践的な栄養管理法について臨床現場と共同研究しています。またライフステージごとの栄養管理も興味深く、(引かれるので周りには内緒ですが)自分の子どもを時々研究目線で観察してしまいます。例えば、離乳食の進め方、嚥下機能や味覚の発達については日々勉強させてもらっています。今回自分が子育て当事者となって驚いたことは、乳児の食の世界にはなんとうさんくさい情報が多いことか！今はネットですぐに検索する時代ですが、いろんな情報があふれかえり、正しい情報がそれを求める当事者に届きにくい状況かもしれません。

また管理栄養士の社会的ニーズに関する厚労省の調査研究に携わり、離乳前から保育園に預ける人が増え、食物アレルギーや食中毒など食の安全・安心や栄養面での期待から管理栄養士のニーズが高まっていることが分かりました。実は管理栄養士が配置されている保育園は全国的に少数派なのです。食保健学科は管理栄養士を養成していますが、このような乳幼児やその保護者の栄養に関する問題にも管理栄養士は食の専門家として社会貢献できる存在なのだと身をもって感じています。というように、私のような研究分野では子どもとの生活も研究教育と連続している面があります。

とはいえ、仕事OFFの時は(やっぱり観察しちゃいますが)なるべく何も考えずに子どもとベタベタしたいと思っています。ただ家では「かあちゃん」としての「ON」が入るわけで、本当の意味での「OFF」はまだまだお預けかもしれません。もう少し大きくなれば、OFFの時間には大好きな民族楽器を一緒に奏でる日がくればと楽しみにしています。

こばやし・ゆきこ
病院等管理栄養士勤務を経て2003年より食保健学科嘱託助手、学位取得後、2011年より現職。臨床系実習を中心に担当するとともに「何をどれだけ食べたら良いのか」をテーマに栄養科学の基礎・応用の両分野の研究に邁進中。

男女共同参画推進室の書籍紹介

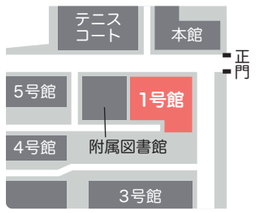
推進室では、関連書籍(283冊)を学生や教職員の皆さんに貸出をしています。ハラスメントやメンタルヘルス等の研修教材もあります。書籍一覧は男女共同参画推進室のホームページからご覧になれます。ご活用下さい。(下記に一部をご紹介します)

❶『**なぜ理系に進む女性は少ないのか？ートップ研究者による15の論争**』スティーブン・J・セシほか著 / 西村書店
❷『**大学生のためのキャリアデザイン入門**』岩上真珠ほか編 / 有斐閣
❸『**大学教員準備講座**』夏目達也ほか著 / 玉川大学出版部
❹『**女性研究者とワークライフバランスーキャリアを積むこと、家族を持つこと**』仲真紀子ほか編 / 新曜社
❺『**学術書を書く**』鈴木哲也ほか著 / 京都大学学術出版会
❻『**ワーク・エンゲイジメント入門**』ウィルマー・B・シャウフェリ著 / 星和書店

編集後記

今年度から女性教職員昼食会を行っています。前半は本学の女性教員による「ためになる」お話。後半は参加者で雑談をしています(もっとも、前半のお話が面白くて交流タイムまでいきつかない最近の傾向ですが)。「顔は知っているけれども…」という教員、職員との会話で“人となり”を知り、日常の業務も気持ちよく進めることができるようになったように感じます。やはりコミュニケーションの頻度・密度・角度は、職場づくりの要ですね。
昼食会は、年度内にあと2回開催予定です。出入り自由、男性も参加できます。昼食持参でお越しください。

編集・発行
京都府立大学
男女共同参画推進室
〒606-8522 京都市左京区
下鴨半木町1-5(1号館3階)
TEL：075-703-5143
E-mail：danjo@kpu.ac.jp
HP：www.kpu-sankaku.jp



Kyoto Prefectural University founded 1872 KPU

Newsletter

京都府立大学 男女共同参画推進室 ニュースレター

Vol. 06
2016.02

男女共同参画推進室の取組を振り返って
～「京都府立大学男女共同参画に関する意識調査」報告から～

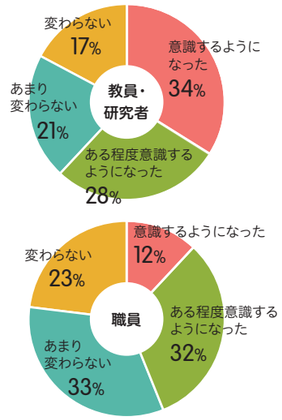
2013年10月から始まった男女共同参画推進室の取組も2016年3月で一区切りを迎えます。そこで、男女共同参画推進委員会では、この2年半の取組の成果と今後の課題を把握するために、2015年7月に全教職員を対象に男女共同参画に関する意識調査を行いました。今号では、その結果の抜粋を紹介します。(なお、報告書は2016年3月に発行を予定しています)

時期 平成27(2015)年7月16日(木)～7月31日(金)
対象 300名
(常勤教職員、特任教員、特任研究員、学術研究員、実習助手)
調査方法 無記名アンケート用紙の配布
回収率 教員・研究員 65件(33.8%)、職員 69件(63.8%)

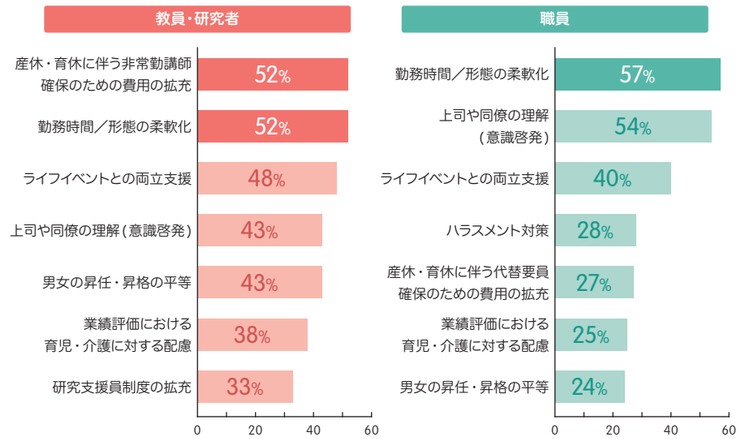
調査項目
①回答者の属性
②推進室事業の認知度、継続希望、意識の変化
③育児や介護に関する休暇休業制度の認知度・利用状況、育児や介護のニーズ
④今後、推進室に求めるニーズ

調査結果(一部抜粋)

Q 今回の事業は男女共同参画の意識の向上につながりましたか。
(男女共同参画に関する意識の変化)



Q 本学における男女共同参画推進のために、どのような事業が必要だと思いますか。
※上位7項目のみ抜粋



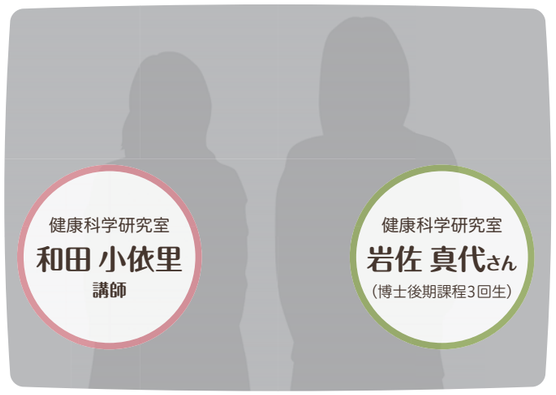
アンケートには多くの方にご協力頂き、ありがとうございました。
2013年10月の男女共同参画推進室の立ち上げから短期間で事業を進め、意識啓発も継続的に取り組んできました。調査では、2/3を超える教員・研究者が「男女共同参画を意識するようになった」「ある程度、意識するようになった」と回答しており、男女共同参画推進委員会では、今回の事業が男女共同参画を意識する契機になったと考えています。
また、事業内容については、今後はニーズを踏まえたうえで本学に合った取組を中心に据えるべきという指摘も頂いています。教職員双方からの要望が高い「勤務の柔軟化」やこうした制度運用の背景となる「意識の向上」も今後の課題と考えています。
自由記載の意見も多数頂きました。今回は職員も対象にしたため「男性教職員の育休取得」「ゆとりある人員配置」「臨時職員の待遇改善」「教職員が利用できる相談窓口の設置」など、職員の就業環境整備に関する意見も頂きました。女性研究者支援から男女共同参画へ視野を広げ大学構成員の学びやすく働きやすい環境づくりを進める段階となっていることが浮き彫りになりました。引き続き多くの方の協力をお願いします。

総括セミナー案内

女性研究者研究活動支援事業 総括セミナー ～京都府立大学における女性研究者支援と男女共同参画推進のこれから～
日時：2016年3月2日(水)　14時30分～16時30分　京都府立大学稲盛記念会館103講義室
内容：●基調講演「研究環境のダイバーシティ実現に向けて～科学技術・学術分野における女性の活躍促進～」唐沢裕之 氏 / 文部科学省 科学技術・学術政策局人材政策課 人材政策推進室長　●本学の取組報告＝小沢修司男女共同参画推進室長　●研究支援員制度利用報告＝本学女性教員3名　●講評＝木村忠正氏 / 科学技術振興機構(JST)科学技術プログラム推進部プログラム主管

研究支援員制度を利用して

男女共同参画推進室では、2013年11月より、出産・育児・介護等のため研究に十分な時間を確保することが困難な研究者が研究活動を継続できるよう、研究支援員制度を創設し、研究支援員（本学大学院生等）を配置してきました。本制度を利用した生命環境科学研究科の研究者を紹介します。



和田講師は京都府立医科大学を卒業し内科臨床医として勤務後、2008年に長年の希望だった栄養学の研究をするために京都府立大学に赴任。研究テーマは、食品の抗炎症効果に関する基礎的研究やメタボリックシンドローム患者の臨床栄養学研究です。日本の伝統的な発酵食品が腸内細菌叢を改善する作用に着目し、調査と動物実験を行っています。
和田講師はこうした実験を京都府立医科大学で行うことも多く、府大との往復時間もかかります。また、毎日、息子さん（2歳）の保育園の送迎があり残業ができないため、同じ研究室の大学院生（D3）の岩佐さんが研究支援員として自身の実験の空き時間を有効活用し、和田先生の論文作成補助やデータ入力、分析補助を行っています。

和田先生から岩佐さんへ
仕事が早く丁寧なのでとても頼りにしています。

岩佐さんから和田先生へ
子育てで忙しい中、自身の栄養管理を怠らず毎日お弁当を作る姿は、私も見習うべきところであり、尊敬しています。食保健学科の鑑です。

研究支援員制度利用状況

年度	利用者 教員・学術研究員等	申請理由	研究支援員 本学大学院生、卒業生等
平成25年度	10名 女性 8名、男性 2名	育児 8名 介護 2名	23名
平成26年度	10名 女性 8名、男性 2名	妊娠・育児 8名 介護 2名	13名
平成27年度	12名 女性 10名、男性 2名	育児 10名 介護 2名	16名

平山講師は2008年に京都府立大学に赴任。現在の主な研究テーマは都市近郊林の生物多様性保全へ向けた生物間相互作用ネットワークの解明です。京都市近郊の森林では常緑広葉樹シイの拡大、ナラ枯れ、シカ害などが進行し、保全のための管理施策の確立が急務となっています。そこで、生物多様性や生態系の安定性に大きく関わる生物間相互作用ネットワークに着目し、森林の動態メカニズムや生物多様性の維持メカニズムを明らかにする研究を行っています。
研究支援員の和田文子さんは、2002年に本学農学部森林学科を卒業し、現在は小学生、中学生の2人の子育て中です。2014年4月より週2回、平山先生の研究室でドングリを割って、ドングリの虫害の有無やどんな虫に食べられているのかを顕微鏡で確認しています。

平山先生から和田さんへ
私の研究には定期的でかつ継続的な調査が必要です。息子（3歳）が生まれてから実験時間の確保やフィールド調査の時間捻出に苦労してきましたが、研究支援員制度を利用し、生活を徐々に研究の方に振り向けることができるようになり、新しい研究展開も視野に入ってきました。また、和田さんには子育ての先輩として育児の悩みを相談しており精神的な支えにもなっています。

和田さんから平山先生へ
最初は昆虫の残した僅かな痕跡を見つけることに苦労したのですが、先生のご指導と経験を重ねることで、虫害の種類の判別もできるようになりました。大学で学んだ森林と関わることができ、また子育てで忙しい中、研究に取り組んでおられる先生のお手伝いができ、やりがいを感じています。

活動報告

男女共同参画推進室短信

両立支援（かつらプロジェクト）

京都府立医科大学に学内保育所が開所

12月10日に京都府立医科大学に保育所がオープンしました。保育所は、本学の教職員も利用できます。詳細は管理課（TEL: 703-5102）までお問い合わせ下さい。

京都府立医科大学保育所概要
対象 府立医大および府立大学の教職員が養育する生後57日目から3歳未満（入所日時点）の乳幼児　開所時間帯 月曜日から土曜日（ただし祝日及び年末年始を除く）午前7時30分から午後6時30分

若手研究者育成（あおいプロジェクト）

科研費申請アドバイス会
女性研究者、若手研究者のスキルアップを目的とし、名誉教授をアドバイザーに委嘱し、科研費申請のための添削会を行いました。
日 2015年8月27日（木）、9月24日（木）、9月25日（金）
ア 田中國介本学名誉教授、渡辺信一郎本学名誉教授（前学長）
応 6件（女性2名、男性4名）

女性研究者ロールモデルセミナー特別企画
「キャリアと子育てを両立するためのマネジメント思考」
日 2015年11月27日（金）10：00〜11：30　講 国保 祥子氏（静岡県立大学経営情報学部講師）　場 京都市男女共同参画センター（ウィングス京都）
共 （公財）京都市男女共同参画推進協会　参 22名（託児利用6名）

スキルアップセミナー
「学生・研究者のためのビジュアルデザインとプレゼンの技術」
日 2015年11月30日（月）18：00〜20：00　講 田中 佐代子氏（筑波大学芸術系准教授）、三輪 佳宏氏（筑波大学医学医療系講師）、小林 麻己人氏（筑波大学医学医療系講師）　参 62名

「京都府立大学 ロールモデル集Vol.2 〜研究者・卒業生のワークライフデザイン〜」刊行
これから進路選択をする若い世代に向けて、本学男性教員3名、女性卒業生4名、大学院生2名からのメッセージが掲載されています。ご入用の方は推進室まで。

学長と女性研究者・教職員の懇談会
学長が主催する教職員の自由な意見交換の場「なからぎトークプラザ」にて、男女共同参画をテーマにした懇談会が開催されました。研究支援員制度の継続や女性同士のネットワーキングの意見が出されました。
日 2015年12月10日（木）14：30〜16：00
講 15名（副学長2名、女性教員6名、職員、男女共同参画推進室員等）

女性教職員の昼食会を開催しています
今年度より月1回程度、女性教職員が職種を超えて交流する昼食会を行っています。各回ともに充実した会になりました。

第4回「災害からの復旧・復興での広域的な対応」
日 2015年12月3日（木）
参 15名　ス 松岡 京美准教授（公共政策学部公共政策学科）

第5回「お菓子とフランス」
日 2016年1月14日（木）
参 15名　ス 玉井 亮子准教授（公共政策学部公共政策学科）

意識啓発プロジェクト

全教員対象 意識啓発セミナー
「大学マネジメントと女性研究者支援」
京都工芸繊維大学の女性研究者支援の取組紹介に始まり、大学の活性化や機能強化のための全学的取組について講演を頂きました。
日 2015年11月19日（木）14:30〜15:30　参 教員102名
講 森迫 清貴 氏（国立大学法人京都工芸繊維大学理事・副学長・前男女共同参画推進センター長）

自主事業

夏期学童保育「府大Kids Labo」

府大の教職員のお子さんを対象にした好評の夏のイベント。今年は1日に短縮して開催しました。午前中は理科実験。講師は生命環境科学研究科の高野和文教授、リントゥルオト正美准教授です。午後は大学に隣接する京都府立植物園を会場に、松谷茂本学客員教授（植物園名誉園長）による楽しいお話と植物の実験。子どもたちも大喜びでした。
日 2015年8月4日（火）9:00〜17:00　参 14名

京都府女性活躍見える化事業 女子学生対象キャリアデザインセミナー「人生この一度きり」
『科学にすがるな！－宇宙と死をめぐる特別授業』（共著 岩波書店2013）等の話題書を多く手がける艸場さんに、志を持ち続けることの大切さをお話頂きました。
日 2015年12月3日（木）16:10〜17:40　参 15名
講 艸場 よしみ氏（編集者（フリーランス）、本学文学部国文学・中国文学専攻卒業）

学生対象 デートDV防止講座
「自分の気持ち、大切に。ハッピーな恋愛をしよう。」
「SNS（ソーシャルネットワークサービス）と恋愛」をテーマに、デートDVのことを知り、自分の気持ちをうまく伝え、お互いを大切にするためのワークショップを行いました。
日 2015年12月17日（木）17:50〜19:20　参 12名
講 斎藤 真緒氏（立命館大学産業社会学部准教授）、斎藤ゼミの学生

今後の予定

活動予定

第6回女性教職員昼食会
日 2016年3月2日（水）12:15〜12:50
場 合同講義棟　第6講義室
講 松田 法子講師（生命環境科学研究科）
男性の参加、当日参加も大歓迎です。昼食持参でお気軽にお越しください。

男女共同参画トークサロン
第一部 昼食会
「働く女性のライフイベントと健康」
第二部 トークサロン
日 2016年3月14日（月）12:15〜14:15（予定）
講 フ 北村 広美氏（大和大学保健医療学部看護学科講師（母性看護学、助産学）、多文化共生センターひょうご代表）

日＝日時　場＝場所　講＝講師　ス＝スピーカー　ア＝アドバイザー　フ＝ファシリテーター　共＝共済　参＝参加者　応＝応募者